

社長所感（10月）

10月は、各地の神様が出雲に集まって、本拠地が留守になるので、神がいない神無月と呼ばれ、逆に、出雲では多くの神様が集まるので神在月と呼ばれているということは、良く知られた話です。

出雲大社は、縁結びの神として有名ですが、それにちなんで、「出雲に集まった神々が、男女1本ずつ2つの糸を結び合って縁結びをしたところ、酒に酔った恵比須さんが暴れて、せっかく結んだ糸がぐちゃぐちゃになってしまったので、結び直したところ、1本余ってしまった。それで、仕方なく2本の糸に追加して結んだ。これが三角関係の謂れ」という古今亭志ん生師匠の落語の「まくら」があります。

三角関係の原因まで、神様のせいにはされては、神様もたまったものではありませんが、なかなか面白い志ん生師匠ならではの「まくら」です。

また、各地の神様の中には出雲に行かない神様もいます。

御柱落しで有名な、諏訪の諏訪大社の神様で、折角、御柱を伝って降りてきた神様が出雲に行ってしまうとは、意味がありませんので、諏訪に留まったままとなります。

それでも、同じ諏訪の中で、春宮から秋宮への神の遷宮が行われます。

いずれにしても、神々が移動されることで、運気が変わり、リフレッシュされるということになります。

伊勢神宮で20年ごとに遷宮が行われるのも、これと同様に「気」の変化に対応したものとも言われています。

このような神々の移動ではないのですが、時代劇で有名な江戸の南町奉行（名奉行として大岡越前守が有名）と北町奉行（名奉行として遠山金四郎が有名）の月ごとの交代制いわゆる月番制（ちなみに、浪速では、東町奉行と西町奉行の月番制）があります。

また、少しマニアックな話となりますが、鎖国時代にオランダ商館などの諸外国との唯一の窓口であった長崎出島の長崎勤番についても、佐賀鍋島藩と福岡黒田藩の1年ごとの交代制が取られていました。

このように江戸時代には、いろんな形態の交代システムがありました。

これらは、日々これ新たなるリフレッシュ効果のほか、ガバナンスの観点（競争原理、癒着の防止、不正などの早期発見）からも、興味深いシステムと思われます。

これらの話とは、同日に論じることはできませんが、

保険契約の更新も1年ごとで、弊社の大半の保険契約も、更新により、10月1日から新しい契約年度が始まります。

そのため、8月～9月事務的な手続きでいろいろとお手数をおかけいたしましたが無事に、新契約年度を迎えることができました。

深く感謝申し上げますとともに、保険業務に遺漏なきようにし、皆様方の業務をしっかりとバック・アップしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。